

「三股プライド」 ～心と形を整える～

令和5年1月20日(金) NO25 文責 ^{きした}木下 ^{ふみあき}文秋

親子を殺める^{あや}悲哀

今週の新聞には、読んでいてため息が出るような記事がありました。静岡県では13歳の長女が自分の母親を殺害する事件があり、大分県では母親が7歳の娘を殺害する事件がありました。

静岡の事件の記事を見ると、スマホの扱いのことで親子間でトラブルがあったような書きぶりがされています。携帯電話が世の中に誕生して、瞬く間に便利となり救われた命もたくさんあったと思いますが、その代償として失われたものも数多くあります。スマホに関するトラブルは今更ここで説明するまでもありません。SNSのトラブルは後を絶たず、なりすましや誹謗中傷で、家庭間でトラブルとなったり、警察沙汰となり、被害届が受理されたりするケースや実際に民事裁判となる事案が市内でも相次いでいます。もちろん本校でも無縁ではありません。子どもからスマホを没収するという手段は現実味がなく、ルールの中で上手に付き合うことを整理するしかないと思います。修学旅行中に、デジカメの代わりに「写ルンです」という昔見かけた、携帯カメラを持参している生徒がいて、尋ねるとネットで購入したそうです。ほとんどの生徒がスマホを持っていると思いますので「じゃあ、スマホをもってきていいからルールを守ってね」と言っても、恐らくバスの中、ホテルでも夜中まで触っているでしょう。これは中学生個人の規律の問題ではありません。18日の朝のニュースで「人がいても、ついスマホをいじっている」と回答した10代女性は60%。これから、ますます便利でかつ弊害を伴う豊かな時代になるのでは。

もし、静岡の事件の背景に「スマホを取り上げられて許せなかった」という殺意があったとしたら、親子の絆すら破壊する恐ろしいスマホ社会になっているということです。大分の事例では、7歳の我が子を殺害した母親は「子どもとの接し方が分からない」と語っているそうです。軽々に物を申せませんが、同様にスマホ世代で、コミュニケーションの力がもっとあったら、周りに相談したり打ち明けたりできたのかもしれないと勝手に思うところです。中学生の皆さん、これからの世の中、スマホがあなたたちの手から離れることは恐らくないでしょう。もしかしたら、教科書がなくなり、スマホだけ持って登校する時代が来るかもしれません。よもや、休み時間にスマホを介して、あちこちで悪口や誹謗中傷が飛び交う学校にならないことを祈るばかりです。